

世田谷区立城山小学校改築基本設計（案）について

（付議の要旨）

区立城山小学校改築工事に係る基本設計（案）がまとまったので、その概要を報告する。

1 基本設計概要

（1）基本方針

- ① 多様な教育に対応し、健康な子どもを育む学校づくり
- ② 環境に配慮した学校づくり
- ③ 地域コミュニティの拠点としての学校づくり
- ④ 安全・安心に配慮した学校づくり

（2）建築概要

① 敷地概要

所在地 世田谷区梅丘2丁目1番11号
敷地面積 10,386 m²

② 建物概要

構造・階数 鉄筋コンクリート造、地上4階建

③ 主要室構成

学校施設 普通教室（13）、ワークスペース（3）、体育館、特別支援教室（2）、特別教室（理科室、家庭科室、音楽室（2）、図工室、多目的室、図書室、パソコン室等）、多目的スペース、給食諸室、管理諸室、新BOP室等

地域連携施設 ミーティングルーム、防災倉庫

④ 建築面積／建ぺい率 約3,657 m²／35.2%

⑤ 延床面積／容積率 約7,470 m²／71.9%

⑥ 最高の高さ 平均地盤面＋17.2m

⑦ 案内図 別紙のとおり

⑧ 配置・平面図 別紙のとおり

2 施設の特徴

（1）配置計画

校舎エリアとランドエリアを明快に区分した、分かりやすい見通しのよい、安全な学校とする。敷地外周部も緑地として有効に活用し、隣接する烏山川緑道との調和を図る。

（2）平面計画

① 普通教室は2～3階の南側にまとめて配置し、自然採光と自然通風による良好

な室内環境を確保する。

- ② 特別教室は、普通教室と同一階である2～3階にまとめて配置し、児童の教室間移動の動線に配慮した計画とする。
- ③ 特別支援学級ゾーンは1階の南西側に配置し、正門に近い位置に専用昇降口を設けることで、動線に配慮した計画とする。
- ④ 管理諸室は昇降口及び校庭を見渡すことのできる1階に配置し、児童の登下校や来校者の視認性に配慮した計画とする。
- ⑤ 体育館は十分な大きさを確保すると共に、中央昇降口に近接して配置し児童・地域住民が利用しやすい計画とする。
- ⑥ プールは敷地の有効活用と騒音に配慮するため、屋上に設置する。

(3) 動線計画

児童の日常登下校動線の他、新BOPや地域利用、休日利用、搬出入車両動線など、利用用途の異なる動線を明快に分けた、安全な動線計画とする。

(4) 外構計画

烏山川緑道に面する敷地東側に「城山の森」を計画し緑豊かな憩いの場とする。

(5) 防災計画

地域の防災拠点として防災倉庫や災害用マンホールトイレ、井戸を設置する。また、校舎や体育館は、耐震性を高めるための係数を建築基準法で定める基準の1.25倍以上とする。

(6) 省エネルギー及び環境対策

太陽光発電パネルや屋上緑化、雨水貯留槽による中水利用等、自然エネルギーを利用した環境配慮対策を講じる。

(7) 仮設計画

旧若林中学校を仮校舎として活用することで、城山小校庭に仮設校舎を設置する案と比べ、工事期間が1年以上短縮され、工事の騒音、振動がなく、校庭の使用が可能となる利点があり、コスト縮減が図られる。その際、新たに設定する通学路については、関係所管と連携して対策を講じながら児童の安全確保を図る。

4 概算工事費

約 26.4 億円（外構・校庭整備工事を含む。）

5 工事工程

平成 26 年度	実施設計、仮校舎改修工事（旧若林中学校利用）
平成 27・28 年度	旧校舎解体、新校舎建設、外構・校庭整備

6 今後のスケジュール

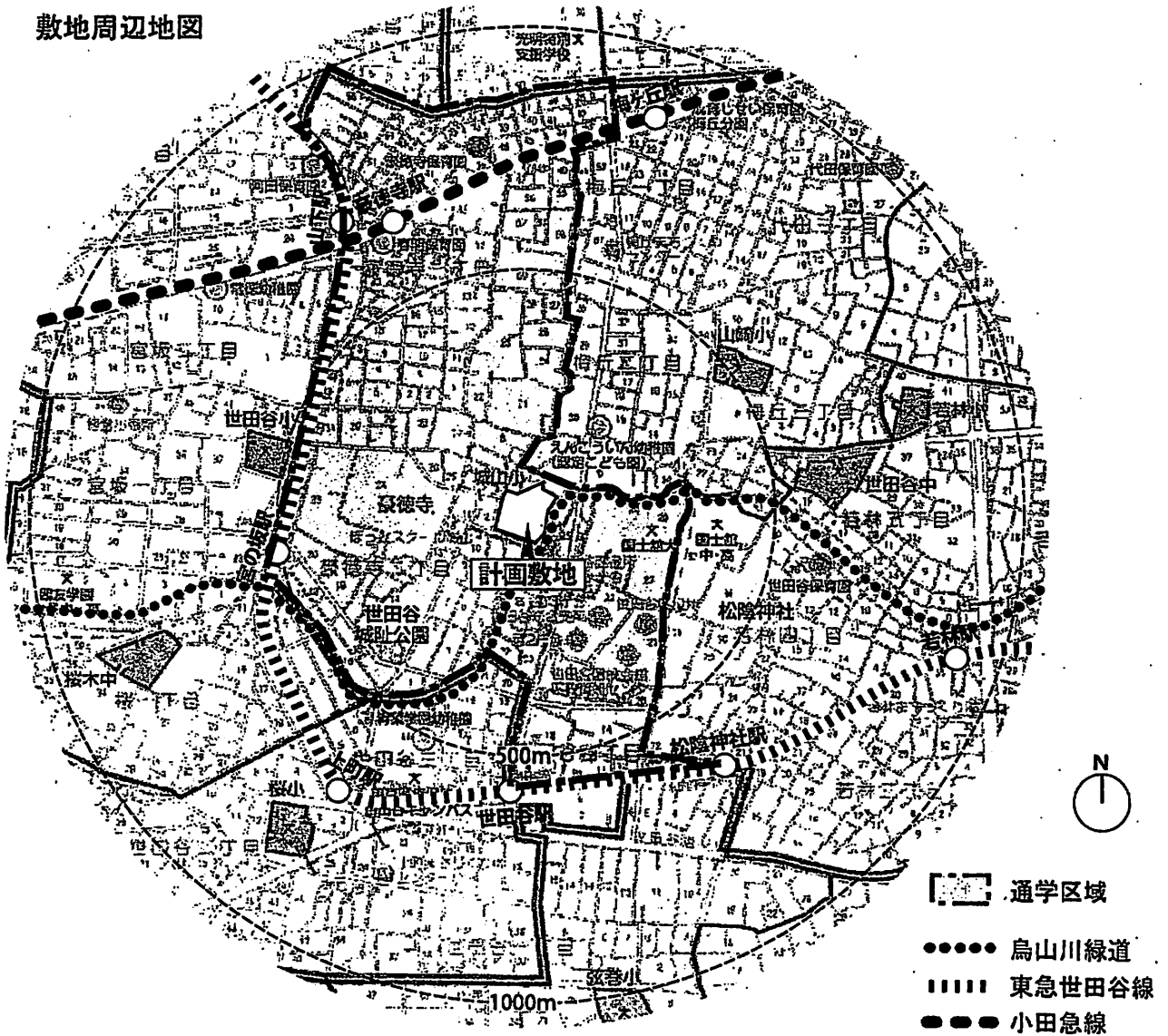
平成 26 年 5 月 27 日	文教常任委員会報告
平成 26 年 6 月	住民説明会

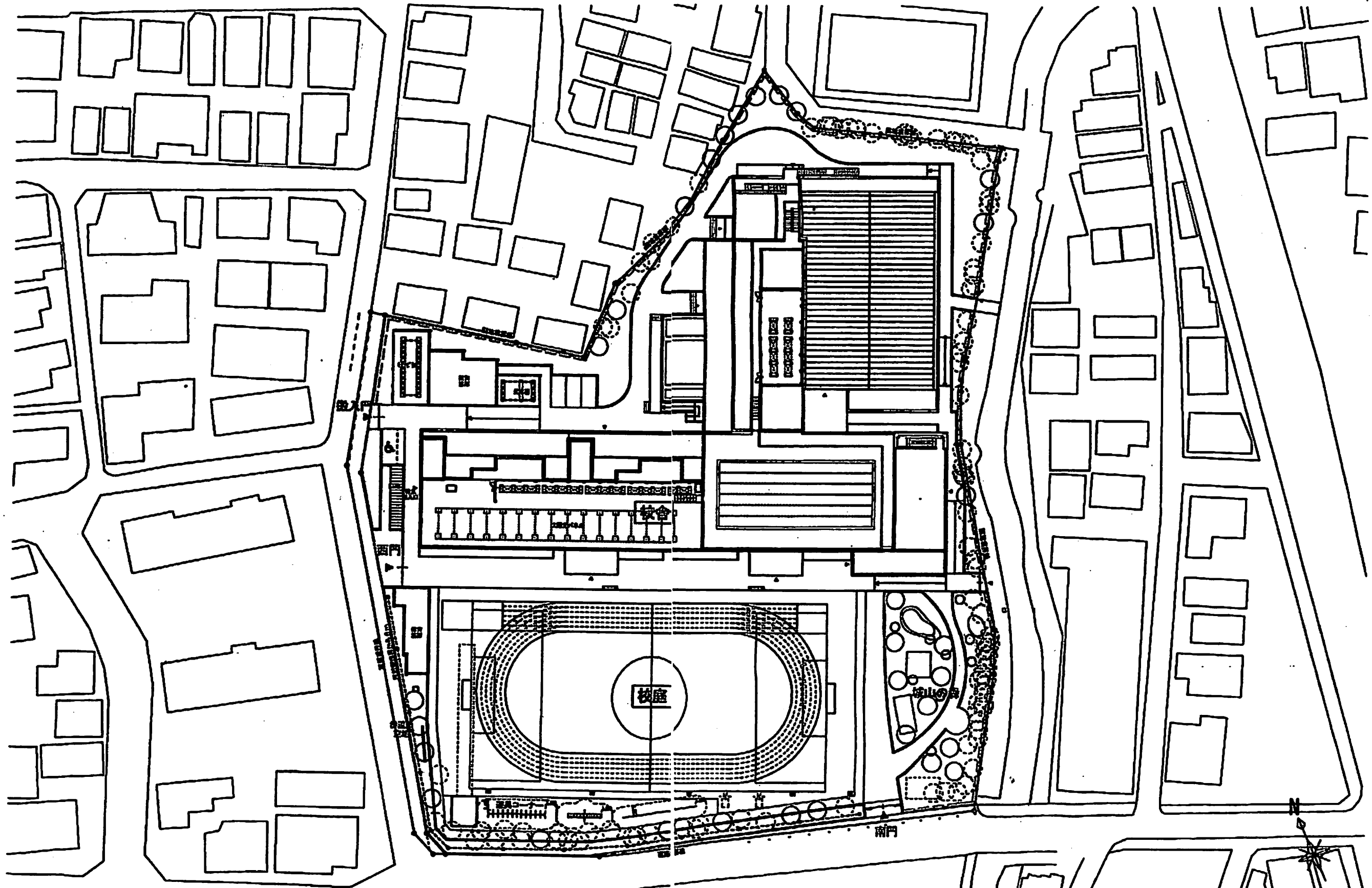
○敷地概要

建物場所 世田谷区梅丘2丁目1番11号
敷地面積 10,386㎡

本敷地は東急世田谷線「世田谷駅」から北へ約600mに位置し、閑静な住宅地に立地している。敷地周辺には、豪徳寺、世田谷城趾公園、松陰神社といった文化財が多く存在する。また、烏山川緑道が敷地に接し、緑豊かな環境を形成している。

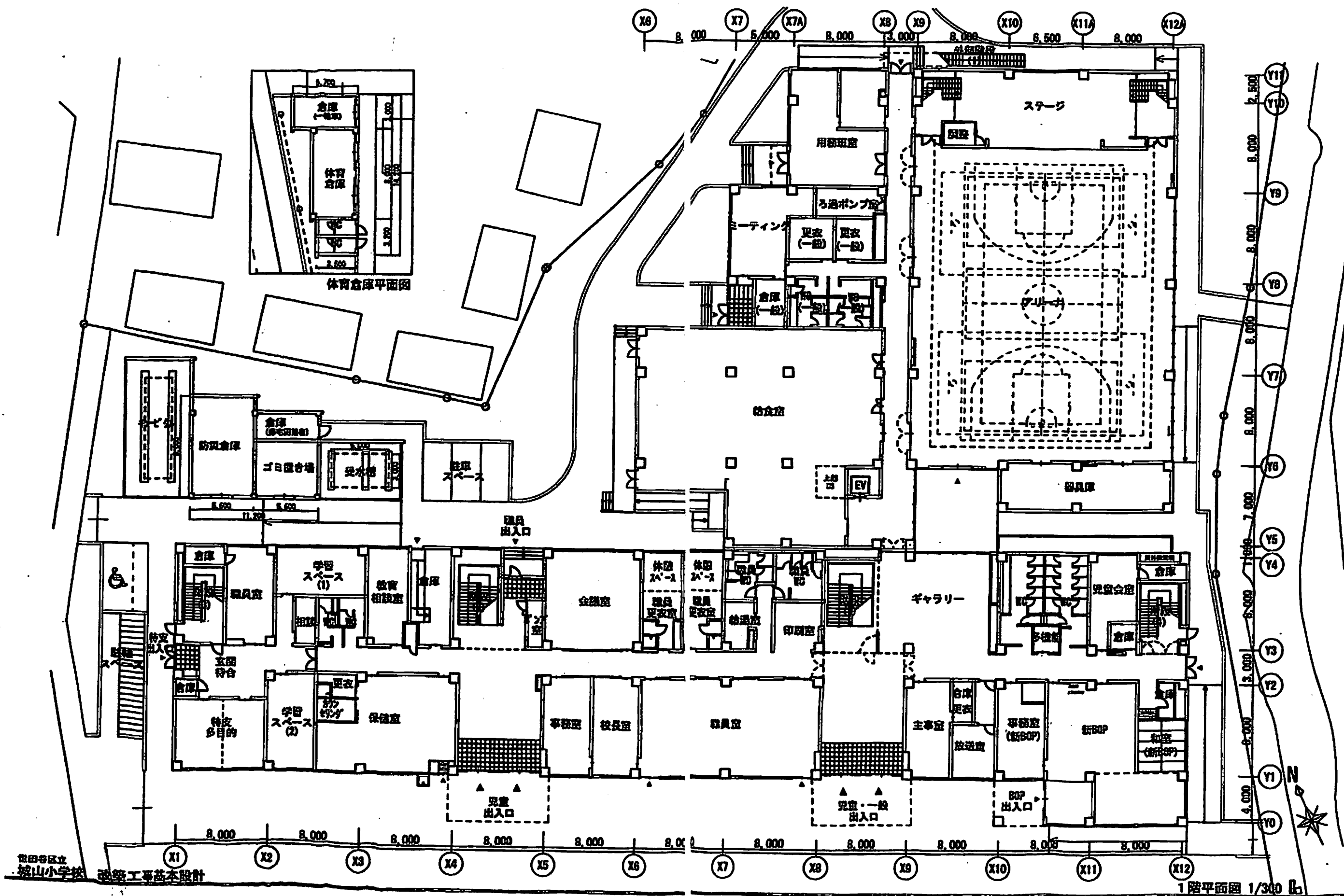
敷地周辺地図





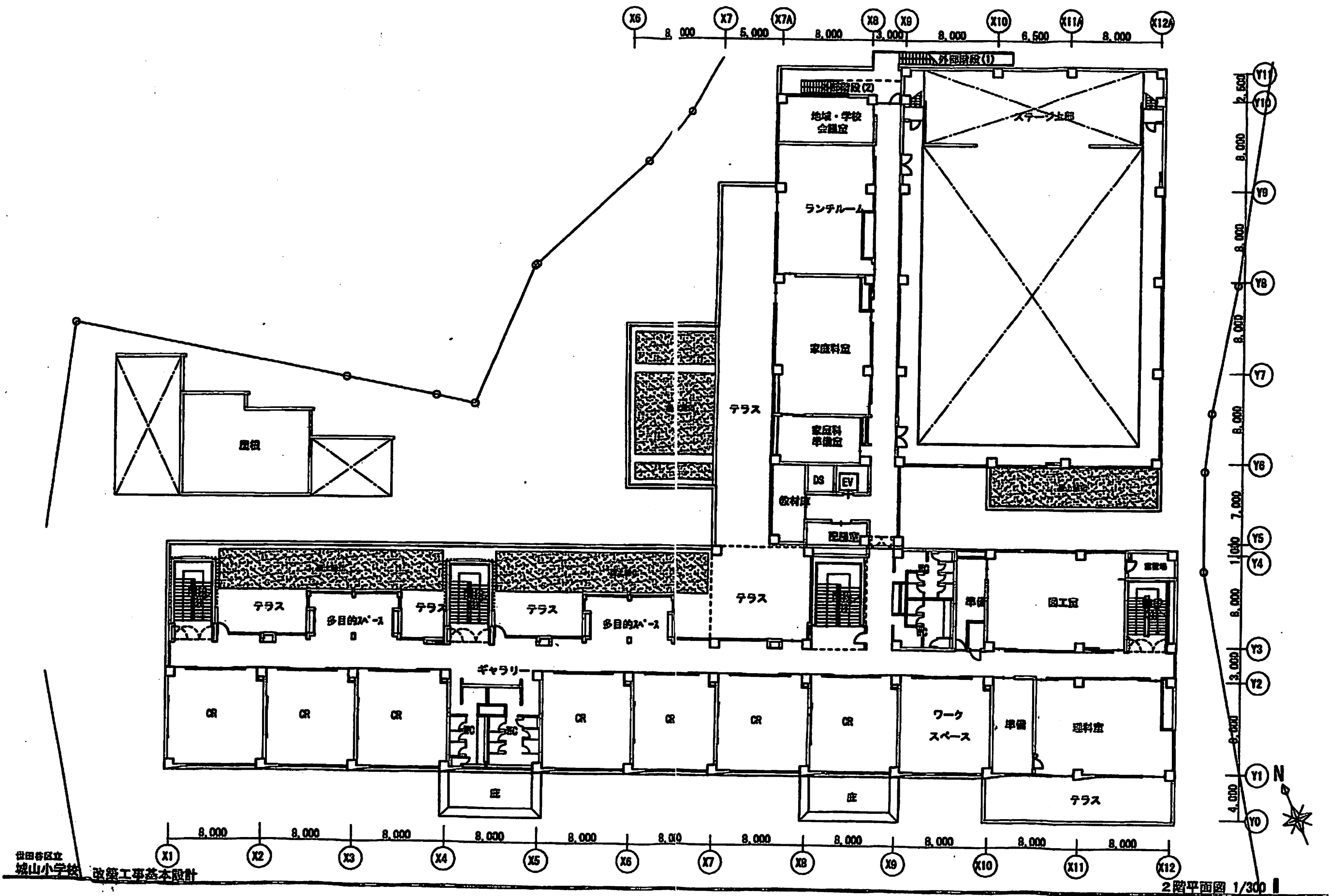
世田谷区立
城山小学校 改築工事基本設計

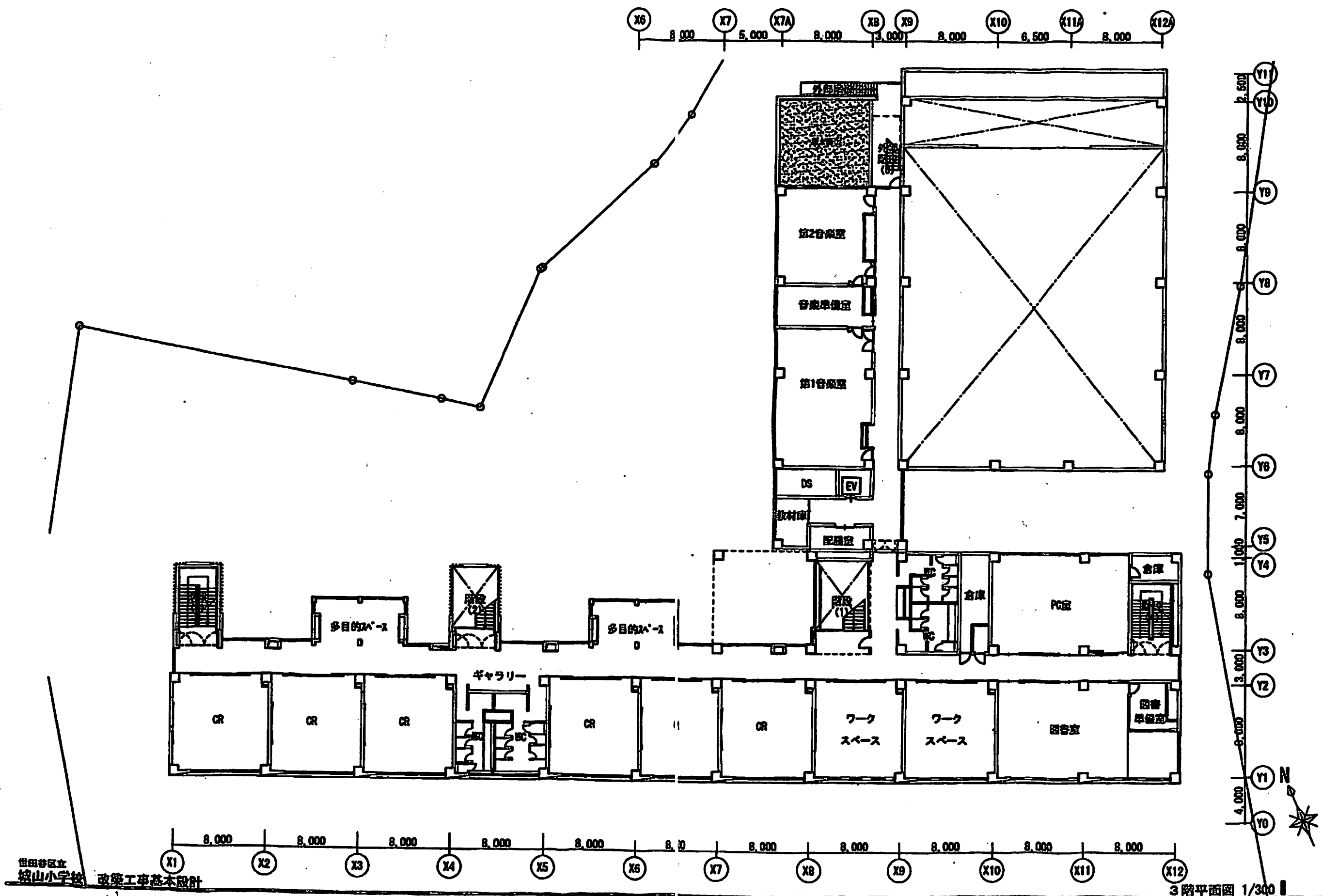
配置図 1/600



世田谷区立
城山小学校
建築工事基本設計

1階平面図 1/300





世田谷区立
城山小学校 改築工事基本設計

